

「生涯にわたる運動意欲や運動習慣の
形成につながる体育授業の創造」
～ 情意へのアプローチの工夫 ～
神石高原町立三和中学校

令和6年度 体育に関する指導推進支援事業

全児童生徒数	104名 (男子63名 女子41名)
全クラス数	5クラス(特別支援級2クラス)
TEL	(0847) 85-4511

1 課題と目的

校内での調査結果から、「運動(体を動かす遊びを含む)・スポーツが好き。」という問いに対して、肯定的回答が約8割、否定的回答が約2割という結果であった。この運動・スポーツに苦手意識のある約2割の生徒への手立てを改善することで、生涯にわたる運動意欲や運動習慣の形成につなげることを目的とした。

2 主な取組の内容

【情意に働きかける手立ての工夫】

①導入の工夫

- ・「運動遊び」の導入
→ 準備運動を見直し、運動遊びを取り入れる。遊びを通して体を動かすことの楽しさの実感と運動に対する抵抗感の軽減。

②展開の工夫

- ・「単元構成」の見直し(球技)
→ これまでの「手本→練習→ゲーム」の流れを見直し、単元の導入時からゲームなどの実践を行わせることで、課題に気付かせて、課題の改善に向けて活動の中で取り組んでいくような学習の流れの構成。
- ・「選択させる」個別最適な学び(陸上競技)
→ ペース走を行う中で、距離ごとに分かれたコースを準備し、自らの能力に合わせたコースを選択させることでより確実な技能の定着を図るとともに目標に対する達成感を味わわせる。

③終末の工夫

- ・「ICT」の活用
→ 振り返り時にICT(タブレットパソコン)を活用。振り返り内容の集約や集計が早く、生徒に即座にフィードバックを行うことができるため、学びをより深めることが可能。

3 取組で工夫したところ

- 学習環境の整備
 - ・運動遊び(風船、長縄、音楽BGMなど)
 - ・学習プリント、ワークシート
 - ・ICT活用のための準備(Googleフォーム)
- 研修会の充実
 - ・校内授業研究での交流
 - ・町主催体力作りリーダー研修での意見交流と実践
 - ・町保健体育部会での夏季研修会
 - ・近隣大学との連携による参観と指導助言

4 成果と今後の課題

<成果>

運動(体を動かす遊びを含む)・スポーツが好き。という問いに対して

肯定的回答 8割→9割

否定的回答 2割→1割

運動・スポーツに対しての肯定感が増加した。

<今後の課題>

今回の実践や働きかけが、今後の体力向上や運動習慣の形成にどのように影響しているのか、継続して検証していく必要がある。



【運動遊びの導入】

バレーボールの授業の準備運動として風船バレーの実施



【単元構成の見直し】

バスケットボールの導入時、実践におけるチーム内で課題の共有



【ICTの活用】

ICTを活用した生徒へのフィードバックと前時との比較